

山 形 県 S D G s 推 進 本 部 会 議

日時：令和 7 年 7 月 29 日(火)10:15～

(直前の会議の終了時刻により前後)

会場：県庁 502 会議室

次 第

1 開 会

2 本部長あいさつ

3 議 事

本県におけるSDGsの推進について

4 閉 会

【配付資料】

資料 1 持続可能な「やまがた」に向けて ～SDGs×山形県～

資料 2 持続可能な開発目標(SDGs)に関連する主な取組み【令和 7 年度】



SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のあるよりよい社会の実現に向け、2015 (平成27) 年の国連サミットで採択された世界共通の目標で、2030年までに達成するべき17のゴールと169のターゲット、約230の指標例で構成。

本県では、第4次山形県総合発展計画において、県づくりの基本方向として「県民一人ひとりの希望を実現して、真の豊かさ、生きがい・幸せを実感でき、持続的に発展する“新しいやまがた”の創造」を掲げており、これはSDGsの理念と合致するものであることから、計画に掲げる各種施策の推進を通して、SDGsの達成に貢献していくこととしている。

本県のSDGs推進体制等

○SDGsの推進に向けた共同宣言 (R2. 8月)

- ・県、山形大学、山形新聞社の三者でSDGsの考え方にに基づき、人と自然の調和のもとで県民誰もが真の豊かさや幸せを実感できる山形県県づくりを目指し、互いに連携して行動していくことを宣言

○やまがたSDGs推進ネットワークによる情報発信 (R2. 8月～)

- ・上記の共同宣言に基づき、情報発信・交流の場となるプラットフォームをフェイスブック上に開設 (山形新聞、山形大学が共同して管理運営)

○山形県SDGs推進本部の設置 (R3. 7月)

- ・知事を本部長に、全庁一丸となってSDGsの実現に向けた取組みを展開するため、推進本部を設置

民間との協力事業

○モンテディオ山形ホーム戦のSDGsブースでの啓発 (R4～)

- ・やまがたSDGs推進月間中、スタジアムに設置されたSDGsブースでワークショップ等の普及啓発活動を行う。

○やまがたSDGs活動発表会への協力 (山形新聞社主催) (R5～)

- ・SDGs推進に向け、児童・生徒による活動発表会を開催し、他学年・他校の発表に触れることでさらなる学習意欲の向上を図る。

○県内メディアの温暖化防止キャンペーン「1.5℃の約束」への協賛 (R5～)

- ・「1.5℃の約束」は、国連広報センターとメディアが共同で推進するキャンペーン (令和4年開始)。パリ協定で掲げられた、産業革命前からの気温上昇を「1.5℃」に抑える努力目標の達成に向け、積極的にメディア発信することとされている。県内メディアのキャンペーンに協賛し、SDGsの普及啓発を図る。

○自治体職員向けSDGs研修の実施 (R5～)

- ・SDGsの視点を踏まえた政策形成能力の向上を図るため、リコー・ジャパン株式会社から講師を迎え、自治体職員を対象としたリスクリング研修を開催。

○株式会社セブン・イレブン・ジャパンと連携した普及啓発の展開 (R7～)

- ・食品ロスの削減に向けた「てまえどり」ポップややまがたSDGs推進月間の啓発チラシを県内のセブンイレブン各店に掲示し、意識向上や機運醸成を図る。

今年度の県取組み

SDGs推進に向けた主な取組み

○「やまがたSDGs推進月間」(令和7年9月19日(金)～10月19日(日))【継続】

- ・国連開発計画 (UNDP) 等によって設定されたSDGs週間※を含む1ヶ月間を、本県独自の「やまがたSDGs推進月間」と設定し、期間中、官民が一体となって集中的に周知・広報等を行うことで、県民・県内事業者の主体的な取組みを促し、県全体でSDGs達成に向けた機運を醸成。
※ SDGsが国連で採択された9月25日を含む約1週間 (令和7年度は9月19日～28日) で、SDGsの推進と達成に向け、世界各地でさまざまなイベント等が開催される。

《「やまがたSDGs推進月間」における取組み内容》

- ・県庁・総合支庁、県関係施設をSDGsで彩る取組み
- ・県内事業者等と連携した取組み
やまがたSDGs活動発表会への協力
モンテディオ山形ホーム戦におけるSDGsブースでの啓発等

○株式会社セブン・イレブン・ジャパンと連携した普及啓発の展開【新規】

- ・やまがたSDGs推進月間 (9月19日～10月19日) において、県内セブンイレブン各店に食品ロス削減に向けた「てまえどり」ポップや、やまがたSDGs推進月間チラシを掲示し、意識向上や機運醸成を図る。
- ・「やまがた環境展2025 (10月18日、19日)」において、SDGsの推進を呼びかける「手作りポップ」を子どもが作るイベントを実施。作成したポップは、セブンイレブン各店の売り場に掲示。

○高校生を対象としたSDGs推進アイデアコンテストの開催【継続】

- ・「高校生アイデアコンテスト」に「SDGs普及部門」を設け、県民のSDGs理解促進・意識向上に資するアイデアを募ることで、高校生がSDGsをより深く考える機会を創出。
- ・東北芸術工科大学の学生による伴走型支援により、アイデアの磨き上げを行う。



(「てまえどり」ポップ イメージ)

継続する取組み

○県職員による出前講座の実施 (R3～)

- ・各種団体における会議等において、SDGsに関する県職員の出前講座を実施。

○県HP、SNSによる情報発信 (R3. 8月～)

- ・県HP「山形県におけるSDGs推進について」及びSNSにより、SDGsに関する各種情報を発信するとともに、啓発チラシを掲載。

○県内自治体の優良事例の横展開の促進 (R6. 9月～)

- ・令和5年度より実施している「県・市町村職員合同SDGs研修」において、県や市町村が取り組むSDGs推進に向けた最新事例の紹介・研究を行い、優良事例の横展開を促進。

持続可能な開発目標 (SDGs) に関連する主な取組み【令和7年度】

◎：新規 ●：拡充 ○：継続



- ◎新たにこども食堂等のこどもの居場所づくりに取り組む団体への立ち上げ経費の助成
●政府の高等学校等就学支援金への県単独による上乗せ補助（低所得世帯への入学金補助等含む）
○低所得世帯を対象とした冬の灯油代購入費等への支援



- スマート農業の導入促進に向けた研修の開催や衛星情報を活用した水稻の生産管理の実証
◎新規参入者等への円滑な園地継承に向けた新規就農希望者の研修園地「果樹研修ファーム」整備への支援及び離農予定果樹地情報データベースの構築
○東北農林専門職大学における実践的な「臨地実務実習」の開始



- 西村山地域の新病院整備に係る基本計画の策定
●修学資金の貸与定員拡充や勤務環境改善支援等による医師・看護師の確保
◎薬剤師不足が深刻な病院に対する薬剤師の派遣体制構築の検討
●県民一人ひとりの健康づくりのためのウォーキングプロジェクトの展開



- ◎メタバースを活用した不登校児童生徒への支援
○東北公益文科大学の令和8年4月の公立化に向けた準備及び機能強化の検討
◎企業見学や職場体験、自然体験活動などの学習機会の充実に向けた教育支援活動に意欲のある企業等を認定する制度の創設



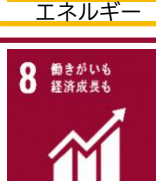
- 女性非正規雇用労働者の賃金引上げ及び正社員転換への支援金の支給
○「やまがたスマイル企業認定制度」による企業のワーク・ライフ・バランスや女性活躍等の推進
◎固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けた啓発
◎若年女性の県内定着及び女性の活躍を促進するための交流会「Yamagata Women's Link」の開催



- 水道用水供給事業施設における大規模改修の実施
○公共用水域や地下水の水質汚濁状況のモニタリングの実施
○市町村等水道事業者等への衛生管理の指導や山形県水道広域化推進プランに基づく広域連携の推進



- 持続的で安定的な電力供給に向けた企業局水力発電所のリニューアル
○洋上風力発電の建設拠点となる酒田港の埋立護岸、ふ頭用地等の整備
◎水素エネルギーの利活用に関する実証事業を行う事業者への支援
◎脱炭素化による地域活性化に向けた熱源（温泉熱・地中熱等）活用の調査研究の実施



- IT・デザイン業等のソフト産業や研究開発部門等の本社機能の誘致促進
◎障がい者の就労における工賃向上に向けたセミナー及び個別相談会の開催
○XR（クロスリアリティ）を活用したデジタル人材の育成と新しいビジネスの創出
◎地域課題解決型ビジネス創出の全県の支援体制の構築



- 公共土木施設の長寿命化対策、劣化状況に応じた効果的な道路舗装のメンテナンスの実施
○高規格道路等の整備促進や、広域道路・地域内道路ネットワークの整備、道路の防災対策の推進
○米沢トンネル（仮称）の早期実現や鉄道沿線活性化と利用拡大に向けた取組みの推進
◎山形空港及び庄内空港の機能強化に向けた将来ビジョンの検討



- ◎多様性が尊重される社会づくりに向けた県民や企業の理解促進のための情報発信
○「こども会議」等を通じたこども・若者が意見を表明できる機会の確保
●障がいや障がい者に対する理解促進や支援体制の整備、障がい者の自立と社会参加の拡大
◎外国人住民が安心して暮らせる環境の整備や日本人住民との交流事業への支援



- 住宅の耐震改修及び減災対策への支援の強化
◎地域における防災活動の多様な担い手の確保等に向けた、教員を目指す大学生への防災士取得支援や女性防災士育成セミナーの開催
○農村RMO形成への将来ビジョンの策定支援や企業・大学等と連携した伴走支援体制の構築



- 「もったいない山形協力店」おいしい食べきりキャンペーンの実施
○プラスチックごみ削減に向けたマイボトルの利用促進
●廃棄物の排出抑制及びリサイクル推進のための施設・設備整備に対する補助
○やまがた環境展の開催等による3Rを推進する人材の育成



- 激甚化・頻発化する豪雨災害を踏まえた治水対策・土砂災害対策の推進
◎県民のCO₂排出量の見える化等による脱炭素アクションの推進
◎さくらんぼの高温対策に必要な設備等への支援や気象災害に強く安全性の高いさくらんぼの雨よけハウスの開発



- ◎海岸清掃ボランティアの人材育成と確保の促進
○飛鳥を舞台とした環境教育事業の実施及び漂着物の回収
○漁業者と地域住民が参加して実施する藻場等の保全活動経費への支援
○岸壁及び防波堤の耐震・耐津波機能の強化、水産環境整備による漁場環境の改善



- ◎オオシラビソ林の再生活動拡大に向けた計画の策定
○再造林の推進に向けた伐採事業者と造林事業者のマッチングによる事業者間連携の促進
◎山岳環境保全活動の担い手確保に向けた保全体験ツアーの開催
●野生鳥獣の生息環境管理、防除、捕獲を組み合わせた被害防止対策の推進



- AI機能一体型児童相談所業務支援システムの運用（児童虐待対応強化）
○「やまがた性暴力被害者サポートセンター（べにサポやまがた）」の運営
○匿名・流動型犯罪グループによる特殊詐欺、強盗等の被害から県民を守る対策の推進
○若年者や高齢者等への消費者教育の展開



- ◎人口減少対策の推進に向けた産業・教育・金融・労働・言論・行政などの各界の代表者が一堂に会し議論する「やまがた未来共創会議」の開催
○産学官金で組織されたコンソーシアムとの連携による、県内各分野のデジタル化に向けた普及啓発、人材育成及びデータ利活用の促進



- SDGs（Sustainable Development Goals）は、2015年に国連で採択され、世界が合意した17の「持続可能な開発目標」
➢ 第4次山形県総合発展計画の基本目標の考え方は、SDGsの理念と軌を一にするものであり、同計画を推進することにより、SDGs実現に貢献していく